巻頭言

「持続可能な消費」特集に寄せて

Introduction: Special Issue on “Sustainable Consumption”

ゲストエディタ 稲葉 敦

Guest editor Atsushi INABA

1992年ブラジル・リオデジャネイロで開催された「地球サミット」で、「持続可能な開発」という理念の下に環境と開発の両立を目指した政策を進める合意がなされた。その結果を受け1993年にISO/TC207が発足し、SETAC(The Society of Environmental Toxicology and Chemistry)を中心とした先進諸国においてLCAの研究が急速に活発になった。「地球サミット」から10年を経た2002年にヨハネスブルグで「持続可能な開発に関する世界首脳会議(WSSD: World Summit on Sustainable Development)」が開催された。ここで、「持続可能な消費・生産パターンの転換(Changing unsustainable patterns of consumption and production)」の必要性が認識された。翌年2003年にモロッコのマラケッシュで最初の国際専門家会議と持続可能な消費に関するワークショップが開催され「持続可能な消費と生産」を推進するための活動が始まった。現在、国連環境計画(UNEP)と国連経済社会局(UNDESA)がその推進母体となっている。

1993年にISO/TC207が開始された当時、我が国には「LCA」を知る人が少なかったように、「持続可能な消費と生産」、特に「持続可能な消費」は我が国ではまだまだ聞き慣れない言葉であるように思う。欧州でも言葉こそ定着しつつあるが、その実態は必ずしもまだ明確ではない。

著者がプロジェクトリーダーを務めた「持続可能な消費プロジェクト(通称)」は、経済産業省の「地球環境国際研究推進事業」の一つとして2002年度～2004年度に3年間行われたプロジェクトである。環境調和型製品開発を促進するためには消費者にその購入を促す必要があり、そのためには消費者意識や行動に関する研究を進めることが必要であるという発想で提案し採択された。このプロジェクトは国際協力事業であり、UNEPや欧米の研究機関との協力を得て実施された。UNEPは従来から、LCA、エコデザイン、プロダクツサービスシステム(PSS)等を推進して来たが、このプロジェクトへの協力により、さらに消費者に近い研究の発展を期待していたように思われる。

東京での3回を含め、ウィーン、パリ、リーズ(英国)、オスロと計7回のワークショップで、研究の枠組みの議論と、事例の発表が行われた。最後のオスロで、研究の枠組みが「オスロ宣言」として一応の形になった。しかし、欧州の研究者のネットワークである「SCORE!」でその後も議論が続けられている状況を見ると、「持続可能な消費」の全体像とそれを推進するためのツールの議論はまだ収束していないと考えることができる。持続可能な消費の推進には広範な人々の参加が必要であり、そのたびに議論が拡大して行くように思われる。

本特集では、産総研の小澤氏に上記のような「持続可能な消費」の活動の背景と世界の動きを紹介して頂いた。また、「持続可能な消費プロジェクト(通称)」を受託していた(社)未踏科学技術協会の水野氏に、「消費者環境教育」について寄稿して頂いた。「消費者環境教育」は「持続可能な消費」の根幹の一つである。

本特集を組むにあたり研究論文の募集を行ったが、応募件数が少なく、研究論文の掲載は2件にとどまった。「持続可能な消費」の特集がどのような研究論文を受取するか日本LCA学会の会員諸氏に内容を伝えることが困難であったためと思われる。本特集の3つの解説が「持続可能な消費」の範疇を明確にすることに役立つことを願う。

掲載された研究論文はいずれも「食」に係わる研究論文である。欧州では、「食」、「住」及び「移動」を例としての持続可能な消費のケーススタディ研究が盛んになりつつある。「食」以外の分野でも、欧米と連携できる研究が望まれる。

LCAを含む今までの環境に関する研究開発は、産業による環境負荷の削減を目指した「持続可能な生産」のための研究開発であったと言える。しかし、近年の民生部門並びに運輸部門の二酸化炭素排出量の増大に見られるように、消費者による工業製品やインフラストラクチャーの使用方法を考えることなくしては持続可能な社会の実現は困難である。消費者の行動と意識に関する研究と、その社会との関わりが今後広く議論されることを願う。

稲葉 敦／東京大学人工物工学研究センター／〒277-8568 千葉県柏市柏の葉5-1-5

(独)産業技術総合研究所ライフサイクルアセスメント研究センター／〒305-8569 茨城県つくば市小野川16-1

Atsushi INABA / Research into Artifacts, Center for Engineering, The University of Tokyo / 5-1-5 Kashiwanoha, Kashiwa, Chiba 277-8568
Research Center for Life Cycle Assessment, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST) / 16-1 Onogawa, Tsukuba, Ibaraki 305-8569